

CASBEE® - 建築(新築)

評価結果

■使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2016年版 (使用評価ソフト: osk_CASBEE-BD_NC_2016(v2.1))

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	(仮称)新千里東町近隣センター地区第	階数	地上13F
建設地	大阪府豊中市3丁目3-11	構造	RC造
用途地域	近隣商業地域、準防火地域	平均居住人員	724 人
地域区分	6地域	年間使用時間	8,760 時間/年(想定値)
建物用途	物販店,集合住宅,	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2021年2月 予定	評価の実施日	2019年1月31日
敷地面積	7,967 m ²	作成者	長谷工コーポレーション 津田
建築面積	3,162 m ²	確認日	2019年1月31日
延床面積	18,292 m ²	確認者	長谷工コーポレーション 吉村



2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

BEE = 1.8

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★

2-2 ライフサイクルCO₂(温暖化影響チャート)

標準計算

①参照値 ②建築物の取組み ③上記+②以外の ④上記+

0 46 92138 8430762368146606539945 (kg-CO₂/年・m²)

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO₂排出量の目安で示したものです

2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

2-4 中項目の評価(バーチャート)

Q 環境品質 Q のスコア = 3.2

Q1 室内環境

Q1のスコア = 3.3

Q2 サービス性能

Q2のスコア = 3.2

Q3 室外環境(敷地内)

Q3のスコア = 3.1

LR 環境負荷低減性 LR のスコア = 3.7

LR1 エネルギー

LR1のスコア = 4.1

LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア = 3.4

LR3 敷地外環境

LR3のスコア = 3.6

3 設計上の配慮事項		
総合	その他	
外周に緑地を確保し、豊かな住空間を創造する。	特になし。	
Q1 室内環境 室内環境の向上を目指しF☆☆☆☆建材を使用している。	Q2 サービス性能 住宅性能表示制度に劣化対策等級3など耐久性に優れた建物としている。	Q3 室外環境(敷地内) 建物の形状や色彩において街並みや風景にバランス良く調和させている。 また植栽により良好な景観を形成している。
LR1 エネルギー 住宅性能表示制度において省エネルギー対策等級4相当としている。	LR2 資源・マテリアル 有害物質を含まない建材種別を採用している。	LR3 敷地外環境 適切な駐車スペースを確保している。

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
 ■Q: Quality (建築物の環境品質), L: Load (建築物の環境負荷), LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性), BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)
 ■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
 ■評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される

大阪府建築物環境配慮評価システム2018年版 大阪府の重点評価(結果)

受付番号

H30-0139

Osakafu-新築・既存 2018V1.0

【建物概要】	建物名称	(仮称)新千里東町近隣センター地区第一種市街地再開発事業(東街区)計画 新築工事					
	建設地	大阪府豊中市新千里東町3丁目3-11					
	用途/区分	集合住宅 物販店					
【評価結果】	CASBEE 総合評価					A	
①	CO2削減					5	
②	みどり・ヒート アイランド対策					3	
③	建物の断熱性					4	
④	エネルギー削減					5	
⑤	自然エネルギー直接利用					○	
	再生可能エネルギー 利用施設の導入状況	太陽光発電	—	風力	—	地熱	—
		太陽熱利用	—	水力	—	バイオマス	—

エネルギー消費量の報告

対象外

【評価項目】			
項目	評価内容	スコア	評価
① CO2削減	CASBEE「LR3-1」のスコアによる評価	5.0	5
② みどり・ヒートアイランド対策			
生物環境の保全と創出	CASBEE「Q3-1」のスコアによる評価	2.0	3
敷地内温熱環境の向上	CASBEE「Q3-3. 2」のスコアによる評価	3.0	
温熱環境悪化の改善	CASBEE「LR3-2. 2」のスコアによる評価	3.0	
③ 建物外皮の熱負荷抑制	CASBEE「LR1-1」のスコアによる評価	3.8	4
④ 設備システムの高効率化	CASBEE「LR1-3」のスコアによる評価	5.0	5
⑤ 自然エネルギー利用	CASBEE「LR1-2」のスコアによる評価	3.0	○
エネルギー消費の実態把握に努める	エネルギー消費量の実績を3年間報告する。	報告する 報告しない	-

その他

	技術の名称	考慮事項
先進的技術の導入		
特に配慮した事項		